

編集後記

毎年のことですが、この別冊をお送りする頃は、初夏のたたずまいが、そこそこに感じられる候です。ところが今年はいつもとよりずいぶんおくれ、長かった夏も過ぎ去ろうとする季節になってしまいました。

本号でも取り扱っています社会保障をめぐる公私問題ですが、この問題は私たちの研究所が今年、来年と共通課題としているものでもあります。この課題は、年金、医療、社会福祉その他、社会保障のいろいろの分野で、現在、理論的にも、実証的にも明らかにされる必要のあるもののようです。本号では主に社会福祉に焦点をあて、公的社会福祉事業、民間社会福祉事業の関係、役割が論じられていますが、その他社会福祉における自助原則、社会連帯原則をめぐる問題にも係わり合いますし、さらにコミュニティとの関係なども究明しなければならない大きな問題だと思えます。

また年金についても、たんに調整年金というだけでなく、公的年金、私的年金、さらに貯蓄などの機能の相違なり、結びつきについても問わなければならないむずかしい問題をかかえているようです。医療についても同じ観点から考えると、これまた検討しなければならない多くの論点があるようです。

これらの問題をどの程度まで、この1、2年で究明することができるかどうかの危惧はありますが、所長以下共通の問題意識をもって、この課題に取り組んでいこうという気構えだけはでき上がっているようです。この面でも多くの方々のご指導、ご援助をいただかなければならないことも多かろうと存じますが、どうかよろしくお願いいたします。

シンポジウム・午後の部で、重田信一先生もコメンターとして参加され、貴重なご意見を述べていただきました。この分の速記録の訂正をお願いしていたところ、ご家族のご不幸が重なり、期日までに編集部には届きませんでした。ご事情がご事情でもあり、止むを得ず、ここではその分を掲載することができませんでした。読者のみなさまのお許しをえたいと存じます。

(F. M.)

別冊 季刊 社会保障研究

昭和46年7月30日発行

編集兼発行所

社会保障研究所

東京都千代田区霞が関3丁目3番4号

社会事業会館内 電話(580) 2511~2513

製作所

財団法人東京大学出版会

東京都文京区本郷7丁目3番1号 東大構内

電話(811) 8814